

講座名	森に親しむ野外講座「いすみ御宿」夏の海辺を彩るスカシユリなど		
開催日時	2024年7月19日（金）7時30分～16時		
開催場所	御宿町／メキシコ公園・小浦海岸、いすみ市／いすみ環境と文化の里センター、太東海浜植物群落	一般参加者	18名

活動概要

千葉駅前から定刻にバス出発し、一路、御宿町のメキシコ記念公園へ。途中、車窓の景色を見ながら、九十九里海岸平野の成立ち、山武林業の歴史、日本・メキシコ・スペイン三国交通発祥の歴史、御宿町岩和田沖でのサンフランシスコ号遭難にまつわる新たな情報をお話ししました。高台にあるメキシコ記念公園では、海風に当たりながら御宿海岸から勝浦市に至る眺望を楽しみ、周辺の樹木（オオバマサキ、カラ



メキシコ記念公園



「いすみ環境と文化の里」にて



イスミスズカケ

スザンショウ、エノシマキブシ等)を観察しました。「ドン・ロドリゴ上陸の地」へバスで移動し下車、徒歩で暗い素掘りのトンネルをくぐり約1kmの小浦海岸では、ハマナデシコ、ミヤコグサ、スカシユリ、ラセイタソウ等が見られました。

千葉県立いすみ環境と文化の里センターへバス移動し、午後の見学地「太東海浜植物群落」の概要を展示の地図で確認しました。2009年に地元で発見され新種とされたイスミスズカケ（種子で増殖したもの）が見られました。冷房の効いた会議室での昼食後、国指定天然記念物「太東海浜植物群落」へ向かいました。



スカシユリの群落

スカシユリの群落は、ちょうど見ごろで、海岸植物の特徴である、草丈が低い、花が大きいなどよく確認できました。黄色い花の



ハマボウ（アオイ科）

ハマボウ、紫の花が咲き始めたハマゴウ、ハマゴウに寄生するアメリカネナシグサ、砂浜のコウボウムギ、コウボウシバ、ハマニンニク、ハマヒルガオ、ハマニガナ、イワダレソウ、ポタンボウフウ等、様々な海浜植物が見られました。参加者の方々は、熱中症に注意して塩飴を交換しながら、熱心に海岸植物を観察されていました。



寄生植物アメリカネナシグサ

帰路、「道の駅むつざわつどいの郷」で休憩。買い物を楽しみ、帰路も順調で、予定より早く千葉駅前に無事到着できました。

講師（チーフ：寺嶋嘉春、アシスタント：鈴木晴美、片山彰、樋口多聞）